

大学生研究フォーラム 2010/事例報告

学生研修という考え方

～学生調査によるアセスメントと大学生キャリアセミナー～

京都大学 高等教育研究開発推進センター/准教授 溝上 慎一

学生研修は昨年度、今年 2 月から始めて約半年くらいの取り組みで大学生キャリアセミナー京都というのをずっとやってきたんです。それはこの調査とか或いは大学生研究フォーラムの議論を受けて私なりにセンターの立場で進めたものであります。

学生研修というふうに、研修と謳っているのはですね、中原さんの話に似ているのですが、ワークプレイスラーニングと仰っていましたが、企業の人の実践が日常の仕事であれば学生の日常は学業であったり活動であったりクラブ、サークル、アルバイトを含めて大学生活ですね。あそこをリフレクションして自分の成長になるための課題、今やるべきことは何か。こういうことを推察してまた日常に戻っていく。そういう場を作っていくのが私にとっては大学生キャリアセミナー京都であるわけです。で、やはり研修じゃないのかな。ちょっと言い過ぎなところがありますけど。そういう初年時教育とか、やはり全員必須という形ではできない取り組みではあります。ただ、そこから見えてくるところを今日はお話したいと思ひまして。

よくこういう話をするとはそれはヤル気ある学生さんに任せておいて私のところはそんな状況じゃありませんとか色々言われるのですが、ここから見える世界というのがあります。私もこれをやってみて、いかに今、例えば政府レベルで言っていることであるとか、社会人基礎力も含めて或いは正課とキャリアを繋ぐということを私は言っていますが、これがいかに難易度の高い課題なのかということがわかりました。前から思っていたことではありますが、非常に実感しました。そういうお話をして、大学で取り組んでいく学生を育てるということは何なのかということを改めて位置づけて見直していきたいというのが報告の趣旨であります。で、あの、学生の学びと成長ということをキーワードにお話ししますが、特に今日、先程のタイプでいうと学生キャリアセミナーに参加してくる学生というのはこちらへんですね。やはり、こう適応してればいいというものではない。元気であればいいというものではない。将来に向けて何か課題意識があるのか、日常で何か頑張っているのか。そういうところに色々問題を抱えてやってくる学生。自発的にやってきても、ですね、私のこういう観点からするとなかなか難しい学生は本当に多いです。あそこに集まってくる学生でもなかなか難しいというのが私の本音で、率直な感想でありまして、本当に大学でこういうことを進めていくことが難しいということ

がよくわかったわけです。あの大学の中で苦しんでいるのはこっちなんですね。つまり勉強しない、対人関係も弱い、キャリアも将来も何も考えていない。高橋先生のキャリアを切り開くという言葉は素晴らしい言葉だと思いました。切り開く土俵に立ってない、キャリアって何？みたいなのがいっぱいいるわけです。そういう人たちに何が学びと成長である。そういう話は突きつけられるわけです。多分そういう人たちにはまず将来と日常を繋げるよりも前にまず将来とはなんだと考えさせることが大事でしょうし、勉強もただやるだけではなく、ちゃんと自分のものになるようにさせていく、理解させていく、日々課題とかをさせていく。そんなことが大事かもしれません。で、そんなのができるようになってくると自分にとっての課題はなんだろう。勉強がどう社会に繋がるんだろう。そういうことがあるかもしれませんが、本当にここらへんは分けて考えないと話がおかしくなります。そういう話を中心になりますね。

キャリアセミナー京都というのは関西の円で色々案内を出して学生さんに集まってきてもらう取り組みでして、将来と日常を繋げるわけですから、就職活動が本格化してきた3回生後期以降は対象外です。1、2回生3回生前期が対象です。で、半年で3回くらいのプログラムでやっているキャリアセミナーというのと、学習サロンという、日々の学びを知らない他者、色々な大学の学生が集まってきて自分が何を専門にしているか。専門も違うし相手も知らない。そういう場で自分がやっていることを自分の言葉でしゃべる。そういう場でありますけれども、そういうのはキャリアセミナーでやっていますが、こういうのをずっとやってきていまして、その中で学生さんを見ているということです。で、こういうキャリアセミナーのキーワードですが、先程から申し上げている点の確認です。

ひとつはまず将来を見出すということですが、特に日常生活と接続するということですね。それから自分の言葉で自分が普段学んでいることを知らない他者に伝えていく。友達みたいにAと例えばA、あああれね、と伝わるような感じで伝えるのは違い、自分のことを全く知らない他者に、その相手も知らないような専門や内容を語る。これは結構難しいですね。キャリアセミナーに集まってくる学生でもできる学生とできない学生にはっきりわかります。普段自分がどれだけ自分がやっていることを伝えているかがそういうときに非常に表れます。そういうことをやっています。これは社会人基礎力の私はコミュニケーション力とか或いは知らない他者に伝えていくロジック、論理的思考力を養われているんじゃないかなと思うんですけれども、で、他者との交流ですね。あの、こういう感じで色々な先生、これ浦坂先生、同志社の先生なんですけれども、呼びながら色々学生たちと議論したり、1、2回生と3回生を分けてやったりもしていますが、こういう感じで色々学生たちとやっています。今日は本当は番田先生と梶原先生にもお願いしていますが、学生さんを一人連れてこのセミナーに参加した学生さんがどんな感じなのかをちょっと報告してお見せするという約束なんですけど、明日は本当はキャリアセミナーの前期のまとめの大会だったのですが、私の体調があまりにも悪くて、7月ずっと活動ができていまして、今日もちょっと終わったら倒れるなという感じなので、で、せっかくキャリアセミナーやってきていますので、一人では伝えきれないところありますから、5人のビデオを撮ってきてそれを今日はお見せしたいと思って用意してきています。で、ここでお見せする学生はいい学生です。だけど、その学生たちでも色々問題を抱えてやっていますけれども、当然こうやってお見せする学生ですからいいです。で、そういう学生を通して私がここ

に込めている考えや想いをお伝えできればと思います。

この 5 人ですね。兄弟の学生で横関君というのと、留学生でヨウくん、佐藤君長谷川君、豊田さん。いい大学の学生さんばかりになるのもありますけれども、ちょっとお見せしたいと思います。どうですかね。ちょっとやっぱり京都大学で活動していますので京大生からスタートしましたが。彼は今 2 回生なんですけど、1 回生から彼を知っていますが最初はふてぶてしくて、生意気なんです。私はそういうの凄く大事だと思ってまして。彼は今とても良い学生なんですけど、あの、彼の顔から現れてくる自信や達成感が非常にあって、こういう京大生よくいるのですが、でも京大の中でもそんなにいつもしょっちゅう見つけられるかといったらそうではなくて、彼はここで見せたら他の方は「京大生ですね」と言いますが京大にずっといて、こういう学生をしょっちゅう見つけられるかといったらそんなことないんですね。やはり京大生の中でも彼は非常に特別で、多分私の適当な言い方ですけど多分 1、2 割の中に入ってくるトップの学生ですね。彼の話はずっと、あるいは彼の話の背後を見ていてですね、達成感であったり、或いはキャリアの中でよく言われる定番の話ですが、自己効力感みたいなのが高いですね。で、生徒会の会長をしてきたとかそういった経験もこういう話の背後には裏付けられているかもしれません。その彼が日常生活を色々作っているという話ですね。またあとで他の学生と併せて感想をまたいいますが、これが一人目。(VTR)

次の学生はヨウくんといって、同志社の政策学部の学生なんですけど、キャリアセミナーもそうですが、学習サロンにずっと定期的に来てくれていています。で、途中話をしてくれますが、自分の専門の話を短い時間に他の学生にしていくというプログラムなんですけど、彼は人民元の関心が非常に高い、やはり中国の学生なのでね。それを日本人の学生にするのですが、なんか伝わってないのか議論が深くないんですね。だからこういうときにコミュニケーションとか課題とか人の持つ関係というのが気になりますけれども、表れとかなんですが、彼はそういう経験を通して次の回からパワーポイントで 1 枚の図をつくってそこに説明するキーワードを入れて、それを他の学生と見ながらやっていくというのをやり始めまして。そういうのが他の学生にいい影響を及ぼして、自分のやっていることとか他者と議論するということは何かということ自分の変化を通して見せてくれた、いい学生さんです。ちょっとビデオでは緊張してしまっていて現れていないのですが、彼が話すときの自分が頑張ってきたことを話すときは良い顔をするんですね。それを見ろと他の学生に言ったんです。こういう感じの顔が出せたら就職活動の面接なんてへなちょこだって冗談ぼく言ってるんですけど。自分がやってることを自分の言葉で伝えていく。そういうことを具現化してくれた学生さんです。ちょっと聞いてください。(VTR) そんなことのために学習サロンやってるわけではないんですけど、彼はなんかいいこと言ってくれたんですね。

佐藤くんという立教からずっと来てくれる子がいます、天気がいいので立教のキャンパスで撮ったのですが、素人くさい撮影で申し訳ありません。彼の顔がちょっと暗いので、写真を見せておきますね。こんなんです。(VTR)

3 人とも共通しているのは、ビジネスをかなり志向していて、大学の学業に直結するわけじゃないですが、まずひとつは、そういうなかで繋がらないと決して開き直ったりしないで繋げる努力をしているということですね。彼は法学部で本当は経営とかに移りたかったけど移れなくてそれでもしっか

り法学部で勉強するためにビジネスにおける法ってなんだろうと調べたんですね。それで自分のやる動機が湧いてきたという話をしてくれたわけです。で、最初からの 3 人も含めて、やはり将来に対するビジョンというものは具体的でなくても持っている。で、それに日常を繋げようという、そういうことを言ってくれているわけです。

せっかくなので 1 回生の 2 人を紹介します (VTR) ちょっと時間が後 3 分くらいなんですけど、最後の学生さん。豊田さん。この方も立命館の方です。先程の彼は立命館の理工学部の 1 回生、彼女は文学部ですね。古典文学とか大好きで大学で勉強したいと思って入ってきた子です (VTR)

最後の 1 回生の二人は下宿、地方から来て下宿しているんですね。で、下宿している学生によくあるんですけど、1 回生の前期って大学生活に慣れるだけで結構大変なんですね。ここでキャリアも何もなくて大体私なんか見ていると思うのですが、普通の学生なら高校時代に大学入ってこんな勉強したいとか将来はこんな分野に進みたいとか考えてきていて、これは大事なことなんですけど、大学に入ったら教養が中心でちょっと専門の科目があるくらいで失望して好きな勉強ができないと、多くの学生は言うんですけど、彼らも言うんですね。言っていたのですが、その中で自分たちができることを見つけてここに今至るんです。私はそういう過程が非常に 1 回生らしくていいなと皆さんに紹介したわけです。で、こんな彼らでも 3 回生くらいになるとずいぶん勉強以外の話もすると思います。1 回生だからどうしても勉強の話が中心でしたが、今言ったような背景があるんだろうと私は理解しています。ただこういう、今いい学生ばかりを見せましたけれども、やはり意識が高いと彼等は言っていました、アセスメントしていったら参加者の理解実行群なんて 10%もいなかったりですね、見通しがいい学生が 4 割もいたりするんです。その中で結構いい学生を皆さんにお見せしてるわけです。つまりこういう自主的に参加してくる場でも将来の見通しがいい人がこれだけいるし、上手いことやれているのは 10%にも満たないなんてこともあったりします。これは別の会の時です。もうちょっと多いですけどそれでもタイプ 3 から比べるとえらい低いですよ。だからこういう中で学びと成長という課題がいかにか重くのしかかっているか、大学教育の取り組みというのを考えていきたいというのが私の報告であります。で、キャリアセミナーって何なのかという趣旨とか背景については皆さんに原稿、書きかけのものですが入れましたので関心のある方は読んでくださればと思います。以上です。ありがとうございました。